

釧路南ロータリークラブ会報

第 37 回 例会 報告 2011.4.8 通算 1391 回

・点 鐘 木内会長

・ロ - タリ - ソング
「我等の生業」



ソングリーダー 佐藤 了会員

・会 長 挨拶



会員の皆様こんにちは、先週の土曜日、釧路キャッスルホテルで新入会員のオリエンテーションが開催されました。私を含め 9 名の参加者があり、入会 5 年未満の会員を対象に実施しました。5 年未満の会員は、長井会員、佐藤了会員、上川原会員、3 名がロータリーの歴史やロータリー用語などを長江会員から分かりやすく、説明がありました。また、6 名の一般会員も同席しましたが、改めてロータリーについて勉強する機会となり、良かったと思っております。話が変わりますが、先週の理事役員会で決定した内容を説明させていただきます。今回の震災で、クラブからの義援金を出すことが決まりました。1 人 10,000 円の会員数分 24 万円を釧路新聞で受付している、日本赤十字へ渡すことになりました。また、クラブの特別会計から一時借り払いをし、次年度の会費に上乘せをして、回収することになりました。来週、私と幹事で釧路新聞に行き渡してきますが、会員の中で同席を希望する方がおられましたら、幹

事へお願いします。また、明日、第 7 分区の会長、幹事会が行われることになっておりましたが、今日、連絡が入り中止になりました。また来週、16 日開催予定の I M (インター・シティー・ミーティング) も中止になり、来週、新たに会長、幹事会が開催されます。その集まりで I M を開催するか、各クラブの発表があります。南クラブは延期で、5 月か 6 月の開催と発表します。また、今回の会長、幹事会の中止は川島ガバナー補佐が手術後の体調不良とのことです。以上、会長挨拶とさせていただきます。

・委員会報告 親睦委員会

- ・本日のニコニコ献金
長江 勉会員 展示会を開催します。
次男が結婚しました

・本日のプログラム

「ロータリー雑誌月間について」

担当 ロータリー情報・メディア委員会

■北上俊一委員長



本年度情報委員長の本年度目標に、ロータリー人としてのマナー励行推奨に、人中でのタバコのマナーと、誰にも気持ちの良い挨拶の励行、R I 自らの会計明朗化の推進を図る意味での、ごく普通の目標を掲げてきました。お陰でタバコ好き、挨拶嫌いな方にはご迷惑をお掛けして申し訳なかったと、思ってもいない自分の気持ちよく好きであります。当クラブの純粋にその受け入れを実行していただいている全員に感謝申し上げたいのですが、いまいち、哉が実感です。組織構成において人、職業、年齢に合った魅力は様々ですが、我々はロータリアンとしての性格上、幅広い豊かな人間性を持つことが必要か

など思っています。ロータリーの輪を広げることは、その組織に社会性、人間性としての良識を求め研鑽の志を強く決意して、入会してくる方にとって、そのマナー秩序は大切である。今回の東北関東災害に世界各地からまた日本各地からの、災害支援が集まってきていますが日本 34 地区中 23 地区個人 1 名より、4 月 1 日現在ガバナー会より募金総額 4 億 1288 万 6628 円で第 2500 地区では 1255 万 5400 円です。送金先は地区ガバナー宛で第 2520 地区岩手宮城 5,000 万円、第 2530 地区福島 3,000 万円、第 2820 地区茨城 1,000 万円栃木、千葉各 500 万円を贈り 4 月 11 日に再度ガバナー会において今後の方針使途方法の決定をします。他には財団の災害復興基金への募金活動はロータリアン問わず誰でもオンライン送金可。「ロータリー日本地震災害復興基金」からの補助金を受けた最初のマッチング・グラント・プロジェクトが承認され第 3350 地区[カンボジア、タイ]と第 2820 地区[茨城]の参加プロジェクトでは合計 65,650 ドルの資金活用で避難生活を送る 1 万 5 千人に援助を提供されます。国内 3 つのロータリー地区資金活用で第 2610 地区[石川富山]被災者支援緊急プロジェクトを立ち上げて被災地支援。第 2840 地区[群馬]会長エレクト研修セミナー日程短縮残余資金を救援活動資金に。明石西ロータリークラブは自家用機にて医療品空輸。東京ロータリアクトはツイッターでのロータリアンからの被災者への応援メッセージ発信を。2500 地区になにを。気持ちで伝える事はどう出来るのか。考えよう。

「 会員卓話 」
清水 哲会員



「流言蜚語のおそろしさ」
東日本大震災が発生して 3 週間が経ちました。マグニチュード 8.8 という事で、科学的に記録に残る震災としては日本史上最大の規模となるようです。1923 年 9 月 1 日正午頃発生しました関東大震災がマグニチュード 7.9 です。ちなみに 1995 年の阪神淡路大震災がマグニチュード 7.3 でした。どのような計算でこの数になるのか分かりませんが 7.3 の阪神

淡路の震災の 180 倍が今回の東日本震災の強さだそうです。1923 年の関東大震災は日本国の首都、大東京の直下型の地震でした。10 万人以上の死者、行方不明者を出しました。これは地震と同時に発生した火災による大惨事です。85%以上が焼死でした。折しもこの震災の数日前に首相であった、加藤友三郎氏が死去し、山本権兵衛氏が首相に指名されておりましたが組閣が難航して山本内閣はまだ成立しておらず、事実上、首相の座は空席のままでした。しかしこの日震災の起きた 2 時間後の午後 2 時には内田（外相）臨時代行首相が閣議を招集、翌 2 日には 960 万円（現在で 1000 億円くらい）の臨時救護費の即時支出を決定。更に非常徴発令を公布し必要な食料、建築材料、衛生材料、運搬具等を確保する手を打ちました。一方軍部は震災直後の 12 時 10 分には、独自の判断で「非常警戒令」を発し担当区域を分担、警備活動と、秩序を維持する活動を開始しました。午後 4 時半には警視總監の正式出兵要請により、防火隊を派遣し、救護所や食糧分配所も開設しました。全日本から集められた、歩兵その他の部隊は被災者の救援、交通、通信の回復、鉄道、道路、橋梁の回復に従事しました。警視庁は地震直後に警戒本部を設置します。さらに当時の警視總監は「戒厳令」の発布を進言しました。戒厳令とは明治憲法のもとにあった制度で、戦時、事変に際し、軍の司令官に、地方行政権、裁判権をゆだね、兵力をもって警備する命令です。この震災の時には、翌 2 日の夕方「勅令戒厳令」という形で一部が施行されました。この「勅令戒厳令」は軍による行政体の代行ではなく、治安のみを目的としたものでした。あとの方で本格的にお話しますが地震直後には、「朝鮮人が暴動を起こす」などのデマで、多くの朝鮮人が殺されるなど、騒然としていました、被災地も、この発令によって次第に平静を取り戻しました。今から 80 年も前、何故これ程迅速で的確な対応ができたのでしょうか。当時の政治家、官僚、軍人には国民を守ろうとする強い使命感にあふれた人が多かったのです。対朝鮮人対策を除いて完全な行政でした。



・ 次回のプログラム

4 月 15 日（金）
「 職場訪問例会 」 移動例会
会場 丸善木材(株)

担当：職業奉仕委員会

・ 点 鐘 木内会長
今週の会報担当：長倉巨樹彦会員